旭が丘小学校だより

令和３年１１月１７日　第２２号

文責　校長

はじめにお詫びです…

１１日に配付しました学校だよりにおいて、全国青少年読書感想文コンクールの入選者として紹介をしていました６年生の　ひさとみななこ　さんの名前の漢字が間違っていました。

（誤）久富奈々子さん　⇒　（正）久冨菜々子さん　です。申し訳ありませんでした。

１１月２６日は算数科の研究発表会です

旭が丘小学校は、令和元年より算数科の研究を進めています。今年度は研究の成果を発表する研究発表会を実施することになっています。大村市教育委員会の指導の下、これからの算数科の在り方や授業の進め方等について、オンライン形式で参加者を募り、授業参観や研究協議を進めます。この日子どもたちはは午後１時１０分には下校となり、職員は会の運営に備えます。ご迷惑をおかけしますが、本校職員の指導力の向上のためにご理解いただきますようお願いいたします。

＜朝の子どもたち＞

「おはようございます」「ありがとうございました」元気なあいさつや停車してくれた車にお礼を言う子どもが増えました。大人の方の中にも、学校前であいさつのよさを指摘してくださる方や車を停止してくださる人が増えたように思います。この朝の子どもたちの姿が、生きて残る姿になるよう指導を続けていきたいと思います。

（５年　外国語の学習風景⇒）

旭が丘小　算数の力をつける必要があります。

本校では、先日の全国学力・学習状況調査において、国語科の正答率は長崎県レベルだったにもかかわらず、算数科の正答率は３～４ポイント程平均より低い結果となりました。算数科の内容は系統性が強い内容が多く、その学年の学習をしっかりやればよい、というものではありません。時には前学年にさかのぼって振り返って学習をすることも大切です。そのため、必要に応じて以前勉強した学習内容のプリントをさせることで、忘れている学習内容を取り戻させたりすることもあります。分掌の読解も含めて繰り返し取り組ませることで、前学年の内容やすでに学習した内容を確かなものにする必要があります。

このような理由から、学校での学びに加えて家庭学習の重要性がわかっていただけると思います。

特に高学年の段階で、次の事ができるように定着させたいと考えています。

① 毎日の学習の習慣づけ（高学年で１時間半は家庭学習をさせたいところです）

② わからなかったところをわからないといえる、見つけられる習慣の育成

③ 課題（弱点）の重点的な取組（課題になっている内容を自主的に取り組む）

やり始めないと、すべてはスタートしません。

まずは先生と保護者の皆様との子どもの課題の確認から…。確かな力をつけてあげましょう。